

県立松橋東支援学校 令和5年度(2023年度)学校評価表

1 学校教育目標

生命の尊重・深い愛情を基盤に、幼児児童生徒一人一人の個性を大切にして可能性を最大限に伸ばし、豊かな感性を育み、主体的・自立的に生きていこうとする幼児児童生徒を育成する。

2 本年度の重点目標

- (1) 安全で安心な教育環境を整備し、障がいの状況に応じた適切な支援を徹底する。
- (2) 子どもたちの可能性を最大限に伸ばし、夢の扉を開く基盤となる自立活動の充実を図る。
- (3) 家庭や関係機関と連携した交流及び共同学習を推進し、本校教育の理解啓発を図る。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	経営方針等の具現化	本年度の重点目標、具体的な努力点等の確実な実践	・安全で安心な教育環境の整備に向け、学校での事故を0にする。	・朝会で幼児児童生徒の体調面に関する情報を共有するとともにヒヤリ・ハット事案はすぐに全体で共有し、再発防止策を確認する。	B	・1月末現在、17件のヒヤリ・ハット事案があり、職員間で再発防止策を確認した。大きな事故は1月末現在、0件である。引き続き事故の未然防止に努めていく必要がある。
	働きやすい職場環境づくり	働き方改革の推進	・職員の時間外勤務時間の年間平均を16時間以内(昨年度約19時間)にする。	・職員アンケートをもとにすぐに改善できる点や次年度に向けた改善点等について改善を図るとともに、会議の精選を図る。	B	・職員の時間外勤務時間の年間平均は1月末現在で約19時間(昨年度年間約19時間)である。午前中授業の日を増やし、事務処理日の導入など行っているが、更なる改善を図って行く必要がある。
	地域から信頼される学校づくり	家庭や地域との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価、保護者アンケートの「家庭と十分に連携している。」の項目で「そう思う、ややそう思う」の割合を90%以上の理解を得る。 ・地域の学校との交流及び共同学習や地域のボランティアグループ等との直接交流の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連絡方法で、クラスルーム等の活用も検討するとともに学校HPで日々の教育活動の様子を随時伝える。 ・事前の打ち合わせを十分に行い幼児児童生徒の学習の充実につながる限り直接交流の機会を設定していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価によるアンケートの集計結果によると、「家庭と十分に連携している。」の項目で「そう思う、ややそう思う」の割合が97%の回答だった。 ・保護者のクラスルームの活用割合は本校で約4割と増えてきており、幼児児童生徒の様子をすぐに伝えることができてきた。 ・感染症対策も落ち着いてきたことから、直接交流する機会が増え、幼稚部2回(オンライン1回、直接交流1回)、小学部8回(オンライン3回)、中学部2回の交流及び共同学習を行うことができた。また、地域の方との交流もコロナ禍前の状態に戻りつつあり、打ち合わせを綿密に行いながら、直接交流し、学習の充実につなげることができた。
		医療機関等との連携強化	・幼児児童生徒の現状と目標について、関係する医療機関等とのケー	・各学部で幼児児童生徒に関わる担当の方々と連携を図り、得た情報は個別の支	B	・今年度もこども総合療育センター、希望ヶ丘病院病棟の支援会議への参加や、担当看護師等、幼児児童生徒をとりまく支援者と情

			<p>ス会議等で情報共有を密に行い、具体的な支援につなげる。</p>	<p>援計画等に記述するとともに、各担任や学部全体で情報共有していく。</p>		<p>報共有を図りながら教育活動を進めることができた。そのことにより、複数の視点から具体的な支援を考えることができた。</p>
授業の充実	教育課程	教育課程・指導内容の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 複数の視点による幼児児童生徒の実態把握に基づいた教育課程を編成するとともに、指導内容の改善や適切な評価を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任や複数の職員での実態把握や保護者との面談、各病院及び前籍校とのケース会議、リハビリ見学等を通して、多角的な実態把握や情報共有を行う。 教育課程及び指導内容の見直しを学部ごとで定期的に行い教育課程検討委員会で学校全体の動きや学部間の学びの系統性について検討する。 各教科における3観点での目標設定や評価、評価の2期制を実施し改善を図りながら授業実践に繋げる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から職員間での情報共有や保護者と個別面談や電話での対話及び関係医療機関と面談やケース会議等を実施することで、幼児児童生徒の実態や情報の共有を図り、授業づくりに繋げることができた。 各学部の教育課程ごとに成果と課題を整理について職員間で話し合い、次年度に向けた幼児児童生徒一人一人に応じた教育課程を編成することができた。 具体的な目標設定をもとに授業実践、評価、授業改善とサイクルを回すことができた。3観点での目標設定については、今後研修を通して、観点ごとの視点を職員全体で共通理解を図っていく必要がある。
	授業実践	授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動について授業研究会やグループ研修を実施し、知識・理解を深め、実践力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表1事例について授業研究会を実施し、全職員で学び合う。 グループ研修を実施し、目標設定や評価、支援の在り方について意見交換する。 自立活動の実践について1人1事例を簡潔にまとめ、情報交換する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育実践スキルアップ研修と連動して、授業研究会を実施した。事前に、授業参観や授業動画視聴をしたことで学びを深めることができた。また、各学部代表事例について、スーパーティーチャーによる授業参観、意見交換を実施した。専門性の高い情報を得ることができ、助言を全体で共有した。 グループ研修では、自立活動の個別の指導計画を持ち寄り、各自の課題について話し合い有意義だった。
		ICT活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> 本校の実態に合ったICT機器の効果的な活用とを業組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報化チェックリストで本校課題を洗い出し、研修等で取り上げ改善していく。 本校の子どもたちの実態に合ったICT周辺機器等の充実を図り、効果的な使用方法等の事例を紹介し、授業の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストから洗い出した本校の課題であるプログラミング教育について校内研修を計画実施した。他県の特別支援学級の実践事例を紹介し、情報を共有した。 スピーカー、カメラ等の機器を購入し、普通教室だけでなく、特別教室での授業にも活用できるようにした。また、授業で活用できる事例として、学習用PCに導入されているソフトウェアの紹介を校内研修で実施した。

	研究の推進	実践的研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動・各教科等の授業充実をめざし、各学部の課題を洗い出し、課題解決に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の研究テーマに沿った各学部テーマ及び研修計画を設定し学部研修を実施する。 ・各学部の成果を年度末の全体研修で共有し学校全体に還元できるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部は「アセスメントチェックリストを活用した重度・重複障がい児の実態把握」、小・中学部は「各教科の目標設定と評価」、病弱訪問教育は「子どものニーズに応じた目標・手立ての設定と学習内容の精選」「切れ目のない支援のためのシステムづくり」といった各学部のニーズに応じた研修を計画的に進めることができた。
キャリア教育 (進路指導)	将来を見据えた取組	キャリア教育の視点に立った授業の実践と改善	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に合わせたキャリア教育についての実践を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部で作成したキャリアパスポートの要旨委は職員間で情報共有し個に応じた様式を作成できるように促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に、各学部の子どもの様子に応じて様式を作成するように呼び掛けた。個別に作成したものはデータをまとめて、参考にできるようにした。
	進路情報・研修	進路情報の収集と発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、保護者教職員のニーズのもとに進路情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に進路希望調査を行い、児童生徒の進路希望を把握した上でニーズに合った進路便りを学期毎に発行する。 ・卒業生のアフターフォローを行い、卒業後の生活についての情報を収集し、進路指導に活用する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の進路希望先として、支援学校高等部や公立高校が多かったため、保護者が選抜要項や募集定員をすぐに見ることができるように、進路便りにQRコードを掲載し、情報の提供に努めた。 ・過去5年間の卒業生を対象にアンケートを実施し現在の生活の状況を把握できるようにした。卒業生から在校生へのメッセージ等は進路便りに掲載し、進路指導に活用することができた。
	高等学校（高等部）進学に関する進路指導	進学に関する情報の収集・発信及び進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路実現に向けての体制をつくり進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係職員と進路実現に向けての役割を明確にしタイムスケジュールやチェック表を活用して進める。 ・高等学校や高等部に関する情報を閲覧しやすいようにまとめ、進路指導の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は中学3年生の在籍が多かったが、タイムスケジュールやチェック表を活用し、スムーズに手続きを進めることができた。 ・職員室に進路情報のコーナーを設けた。高校や支援学校高等部の学校案内や募集要項を閲覧することができるようにした。
生徒 (生活)指導	安全で安心な教育環境	危機管理対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の情報伝達や、役割等機能する組織の充実を図る。 ・食物アレルギーの対応について研修する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルに関しては訓練実施後見直しの視点に沿った改善を図り最新にしていく。 ・専門知識のある講師を招き、研修を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練実施後、反省および改善点を協議し見直しができています。検討に時間が必要な内容もあり、最新にするのに、少し時間を要している。 ・緊急搬送訓練では、食物アレルギーが実際に起こりうる生徒を想定した訓練を実施できた。また、子ども総合療育センターの医師を招き研修を受けることで、より実践的で有意義な内容となった。

	環境整備	校舎内外の安全管理及び環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心な学習環境に努め、不備があれば早急な改善対策を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検を基本に、その都度結果を周知し、早急な対応を事務局と連携して行う。 危険が予測される場所については表示等で周知する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、特に不審者への対応を見直した安全点検を行うことができた。 全職員に、点検の結果と改善の方向性も周知できた。
人権教育の推進	人権に関する実践と研修等	人権尊重の視点に立った授業実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重の視点に立った職員の実践力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会より配布されているパンフレット等を活用した「第三次とりまとめ」についての研修会を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「人権教育重点月間」の取組前に、「第三次とりまとめ」に関するパンフレットの読み合わせや動画視聴等を行った。その後の授業実践の充実につながられた。
		職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 職員の人権に関する知識理解の深まりや人権感覚の高まりを推進するために、年間を見通した職員研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員レポートをもとに、グループ別研修会を年に数回実施する。 主体的に校外の研修会へ参加できるように参加計画を立案する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権レポートの作成及び互いのレポートの読み合わせを行ったことで、個々の人権意識を高めることにつながった。 職員には事前に参加希望をとった上で、研修会への参加を実施した。「新たな学びにつながった」「今後の実践につながる」といった感想を多くいただいた。
	「命を大切にすることを育む教育	豊かな感性を育み、知識理解を深めるための教育実践	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全体をとおして、自分や友だちの良さを認め合い、思いを伝え合えるような学校・学級づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 重点月間の取組を中心に子ども一人一人の発達段階に応じた授業を実施する。 人権コーナーを活用して、授業の目標や子どもたちの学習の様子を紹介する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの学部・グループが個に応じた「育てたい資質・能力」を明確にした授業を実施することができた。 人権コーナーを活用して、授業の目標や活動内容、子どもたちの学習の様子を分かりやすく紹介することができた。
いじめの防止等	いじめの未然防止及び早期発見	いじめ防止の視点に基づいた学校生活づくり	<ul style="list-style-type: none"> いじめが起りにくい環境や状況づくりに努め、幼児児童生徒の変化に気づけるような職員の意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回「心のアンケート」を実施する。いじめ防止等対策委員会では気になる子どもの様子と対応について専門科の意見を仰ぐ。課題や改善点については全職員で共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期に、全員に実施した心のアンケートの結果報告や対応、各学部からの取組について外部専門員から助言をいただき、委員会での内容を全職員で周知した。 気になる事案がある時は関係者が迅速に集まり、事実確認、情報共有ができた。 スクールロイヤーによるいじめ防止等の研修を全職員で行った。
			<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学び、自己肯定感が高まるような取組や、お互いを知り認め合うような集団づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の作品展示機会を増やしたり、情報を発信したりすることで、学習の様子について知ってもらえる機会を設定する。 毎月1回執行委 	B	<ul style="list-style-type: none"> 美術芸術作品を中心にフォトコンテスト作品なども療育センターに一定期間展示させていただいた。校外の作品展にも複数出品し、本校の教育活動や子どもたちの学習の様子を知っていただくことができた。 執行委員会がリードして

				員会を中心に全校集会を開き、一緒に楽しめるような企画をしたり、子どものがんばる姿や誕生日などを紹介したりして仲間意識を高める。		行われた全校集会では、全員にスポットが当たるように誕生日を紹介したり、みんなで楽しくゲームをしたりした。温かな雰囲気大切に実施し、お互いを知り、かかわり合えるような機会となった。
地域支援	センター的役割の推進	教育相談等への適切な対応及び教育相談の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各校からのニーズに応じた巡回相談や研修等に対応する。 専門性の向上を図り、センター的機能の強化に資する職員の育成を図る。 上益城地域連携協議会事務局校として適切に業務を遂行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回は、各学校の状況をメール、電話で把握する。 事前の電話等での情報収集を詳細に行い、部内で事前準備・事後の実施状況の確認、支援の妥当性について確認しながら、相談校との継続的な連携を図る。 巡回相談に対応できる職員の育成を行うために①巡回相談の実施後の記録を地域支援部職員に渡す。②地域支援部会で巡回相談の内容等の共有化を図る。③オンラインでの巡回相談時には複数の職員で対応する。 スキルアップ研修の充実に向けて、①地域援部内で各学部の状況等の情報共有を図る。②研究部、教務部との連携を図る。③定期的に各学部の授業参観、相談会に入る。 上益城教育事務所、松橋西支援学校及び上益城療育センターと連携協議会、実務担当者会、巡回相談員会議を通して情報共有すると共に、日頃からメール、電話等で連携を密に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の状況をメール、電話で把握することは10校の学校のうち半数以上とはできた。 小中高校の相談件数は昨年度とほぼ同数(160件)であり、巡回相談回数は49回であった。 相談件数が多く、部内では概略的な内容の確認の共有にとどまった。 複数人での巡回相談は校内支援体制等の理由から6回程度に留まった。 スキルアップ研修においては、研究部と連携をとり、役割分担を決めて進めることができた。 学部を超えての授業参観、相談会に入ることは、校内支援体制等の理由から2回にとどまった。 教育事務所、巡回相談員等との連携は、電話やメール等で情報共有が密にできた。そのことで、上益城実務担当者会、連携協議会、指導力向上研修会、就学前説明会等も滞りなく実施できた。
地域連携(コミュニティ・スクールな)	総合型CSを通じた地域と	コミュニティ・スクールの充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校のビジョンを家庭、地域、関係医療機関と共 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会において本校における現状や課題等を明確化し 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会は、2回とも対面で開催することができ委員の方々と直接意見交換できた。委員の方からい

ど)	の連携		有し社会に開かれた教育課程を目指す。	各委員から助言や御意見等を学校経営に反映させる。学校の課題等に対して、必要な関係機関についての情報を得る。 ・校外の作品展等に出品したり学校新聞等を豊福・当尾校区に回覧したりすることで本校の理解啓発を図る。	ただいた意見を行事や日常生活に落とし込み、地域の方々、近隣校との関わりを深めた。 ・三校合同作品展や特別支援学校文化作品展等で地域への発信を行った。 ・学校新聞は9月に地域に回覧し、3月にも回覧予定である。学校HPも定期的に更新を行い、本校の理解啓発を図るようにする。
----	-----	--	--------------------	--	--

4 学校関係者評価

- (1) 学校生活全般について
- ・新型コロナウイルス感染症が5類感染症変更に伴い、色々な経験を重ねてほしい。
 - ・子どもたちの良さを地域、県下に伝えてほしい。
 - ・福祉分野では、意思決定支援が重要になっている。本人がどこで生活したいかなど、意思表示が求められる。自分で意見を言う機会を多く作ってほしい。
 - ・意思決定の際には2者択一にする、選択肢の中から選ぶ等、学校生活の様々な場面で意思決定の力を高めてほしい。
 - ・希望ヶ丘病院の児童生徒とも、離れていてもオンライン等活用し、つながっている取組があった。
- (2) 交流及び共同学習について
- ・地域の学校等との交流及び共同学習は実施学年、回数等、更なる充実を図ってほしい。
 - ・支援学校中学部との交流はあるが、通常の中学校との交流など、色々な生徒との交流が深められると良いと考える。
- (3) 地域との連携について
- ・自主防災組織の取組等、地域とのつながりも深めてほしい。
 - ・一人一人への支援に、サポートできることを模索していきたい。
- (4) 地域支援について
- ・地域支援での課題への対応、地域支援の充実を努めてほしい。
 - ・小、中学校の支援学級では、初めて担任になる職員も多い。地域支援の取組としてオンラインを活用して職員同士顔を合わせるなど、支援の充実を図ってほしい。
 - ・特別支援学級等の担任の指導力向上に向けた研修は4か年計画の3年目を迎えている。特別支援学校で自立活動等について学んだ職員は授業の取組等、変化が見られている。
- (5) 働き方改革について
- ・子どもたちが元気になるためには働き方改革を進めて、先生たちが元気に過ごしてほしい。
 - ・職員の不足はどの分野でも困り感が大きい。人員の確保や様々な知恵を出し合ってほしい。
 - ・働き方改革は難しい面もあるかと思うが出来る事から一つ一つ改革してほしい。

5 総合評価

- (1) 本年度の学校教育目標・重点目標について
- ア 安全で安心な教育環境の整備
- ・1月末までに17件のヒヤリ・ハット事例はあったものの大きな事故は起こっていない。
 - ・保護者アンケートでは「子どもは、健康で安全な学校生活を送っている。」について「そう思う87%」「ややそう思う12%」の回答だった。
 - ・引き続き、学校事故0を目指し、事前に事故が予見される事案に素早く対応し、事故の未然防止に努めていく。
- イ 子どもたちの可能性を伸ばし、夢の扉を開く教育活動の充実
- ・保護者アンケートでは「授業を通して、子どもの力が高まってきている。」について「そう思う70%」「ややそう思う30%」の回答だった。
 - ・昨年度は、ICT活用について研究を進めてきた。今年度は自立活動や教科指導に焦点を当てた、研修を推進し、日々の授業改善を図るようにした。
- ウ 家庭や地域、関係医療機関との信頼関係と連携の強化
- ・保護者アンケートでは「教師は保護者と十分に連携し、保護者の思いに誠意を持って対応している。」について「そう思う76%」「ややそう思う21%」「あまりそう思わない1.5%」「わからない1.5%」の回答だった。
 - ・現在、保護者の中にはクラスルームを活用し、遠方にお住まいで来校が難しい保護者にも

日々の様子をすぐに伝えやすくなっているケースもある。今後も更なる連携強化を図るとともに、関係医療機関との定期的な情報交換会等で連携強化を図っていく。

(2) 自己評価総括表について

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となったことで、地域の幼稚園小学校、特別支援学校中学部、地域の方との直接交流の機会大幅に増加した。また、校外での学習の機会が増加するとともに、小学部高学年は鹿児島方面へ1泊2日の修学旅行に出かけることもできた。
- ・近隣校との交流及び共同学習は、交流校の状況に応じ、これまで蓄積してきたノウハウを生かしてオンラインでの交流に切り替えるなど、臨機応変に対応することができた。今後もオンラインの良さは生かしながら、引き続き、直接交流の機会も設定していく。また、次年度は、近隣の小学校に可能な範囲で本校児童が出かけに行くなどの方法も検討している。
- ・学習で制作した作品やその他の作品、フォトコンテストの写真等は校内やこども総合療育センターでの展示会、三校合同作品展、特別支援学校文化作品展等で学習の様子を啓発することができた。
- ・緊急搬送訓練、火災避難訓練、希望の里合同避難訓練等の各種訓練を重ね、改善点を危機管理マニュアル改訂に活用するとともに、ヒヤリ・ハット事例を共有することで危機管理意識を高めるようにした。
- ・地域支援に関して、1月末現在の担当の上益城地域の小、中、高等学校からの相談件数は約160件とほぼ、昨年度と同じ数になっており、本校の地域支援のニーズの高さを示している。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 転出入者増への対応

- ・1月末現在で、転入72件、転出68件、計140件（昨年度123件）の幼児児童生徒の転出入があった。月ごとの平均在籍者数は、令和3年度約33人、令和4年度約38人、今年度約44人と年々増加している。特に、病弱訪問教育の年間在籍児童生徒数が増えており、職員の時間外勤務の割合も増加している。本校舎では学部を超えて指導・支援体制を整える場面も多かったが病弱訪問教育の方へ職員が出向く等の支援体制を整えることはできなかった。次年度は、病弱訪問教育の授業以外の校務分掌業務の分担を見直していくとともに、本校職員がゲストティーチャーとして病弱訪問教育の授業を行ったり、オンラインで病弱訪問教育の授業を行ったりするなどの方策を検討していく。

(2) 授業の充実に向けた対応

- ・これまで自立活動に焦点を当てた研究や昨年度はICT活用に焦点を当てた研究、今年度は自立活動と各教科の指導の充実に向けた取組を行った。引き続き、授業の充実に向けた効果的な研修体制を検討していく。

(3) 働き方改革の推進

- ・職員の時間外勤務時間の年間平均は1月末現在で約19時間（昨年度年間約19時間）である。文部科学省から標準授業時数を大幅に上回っている場合、授業時数の見直しを行う通知が届いたことに伴い、本校でも午前中授業の日を増やし、事務処理日の導入など年度途中から行っているが、次年度は年度当初から実施し、更なる業務の効率化を図っていく必要がある。また、次年度、教育課程の見直しを行った結果や県教育委員会で推進している校務の情報化の動向もふまえ、更なる業務の効率化、平準化を進めていく。

(4) 地域支援体制

- ・小、中、高等学校からの相談件数は約160件と昨年度と同様の多くの相談を受けている。地域支援のニーズに応じていくために、複数人での巡回相談の件数を増やしていく等、本校職員の更なる専門性向上に努めていく。